

マレーシア国民大学(UKM) 留学案内

—学部大学院への留学とマレー語講座について—

加藤優子*

UKM は、クアラルンプールの南東約 30 キロのスランゴール州バンギ(Bangi)に位置する。クアラルンプールからの交通手段は、KTM コミューターで KL セントラル 駅からスレンバン(Seremban)行きに乗り、UKM 駅で下車する。駅前からは UKM 行きのシャトルバスが約 30 分おきに出ている。クアラルンプールから UKM までの所要時間は約 1 時間である。

1. UKM の留学手続きについて

日本人の学生が UKM に留学を希望する場合は、次の 2 つのいずれかの身分で在籍することになると思われる。UKM で学位を取得する Graduate Student と、学位を取得しない Non-graduate Student である。UKM では、大学院レベルの学生の諸手続きは PPS (Pusat Pengajian Siswazah) が一括して行っている。したがって、留学手続きや学生ビザの申請などは、この PPS を通じて行うことになる。以下、それぞれの身分における手続きの方法について説明する。

(1) Graduate Student として在籍する場合

Graduate Student とは、UKM で一定の課程を修了し、UKM から学位を取得する学生のことである。留学手続きは次の通りである。

PPS で入学申請書 (Application Form for Postgraduate Studies Program) を購入。

申請書に記入。

申請書のほかに、提出書類として以下のものが必要。

- ・パスポートサイズの写真 2 枚
- ・パスポートのコピー
- ・学位証明書 (これまでに取得したすべての学位について)
- ・日本の卒業・所属大学の成績証明書
- ・2 人の教員からの推薦書 (所定様式あり)
- ・財団の奨学金授与証明書
(自費留学の場合は保証人が 2 人必要。保証人の書類については所定様式あり)
- ・その他、専門的な資格 (医師、弁護士など) を有する場合はその証明書

* 学位証明書、成績証明書、資格の証明書などは原本のコピーでも可。

書類を揃えて PPS に送付。

なお、申込金として 10 米ドルの銀行手形を同封するように書かれているが、筆者の経験では、マレーシアに到着後、PPS 窓口で 30 リンギットを支払うことも可能であった。

書類を提出したら、後は PPS から入学許可書が届くのを待つのみだが、許可が降りるのは申請書の締切り日から約 3 ヶ月先になる。入学許可が手元に届いたら、次は学生ビザの申請となる。学生ビザの申請には、次の 2 通りの方法がある。

* 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科

日本でビザを申請する場合

入学許可書のコピー1枚、パスポートサイズの写真2枚、パスポートの全ページのコピー2組を、PPSのMr. Zamri bin Zainal(ビザ申請の担当者、Tel: +60-3-8921-3100)宛てに送る。→イミグレーションの学生入国許可書が PPS を通して送られてくる。→マレーシアに入国する。ただしこの許可書によりマレーシアに滞在できるのは1ヵ月間だけであるため、マレーシア到着後、Mr. Zamri を通して学生ビザを申請しなければならない。

以上が正規のビザ申請方法とされているが、この手続きには膨大な時間がかかる。ある経験者によると、イミグレーションからの許可書が届くのに約4ヵ月かかったため、結果的に留学開始時期を半年遅らさざるを得なくなったそうだ。留学を延期できない場合、で述べる方法もある。

マレーシアでビザを申請する場合

UKM から入学許可書が届いたら、Social Visit Pass でマレーシアに入国する。→Mr. Zamri を通して学生ビザを申請する。

この方法は簡単で早いのだが、イミグレーションからの許可書を取得せずに入国し、マレーシア国内でビザを申請することになるため、ビザ申請費用に加えて、“Journey Performed Visa Process”として500リングギットを支払わなくてはならない。

(2)Non-graduate Studentとして在籍する場合

Non-graduate Student とは、日本の大学に所属しながら、交換留学あるいはマレーシアでの調査を目的として UKM に在籍し、学位は日本

の大学から取得する学生を指す。Non-graduate Student は、交換留学を目的とする場合はそれぞれの研究科の授業に出席するが、調査を目的として留学する場合は授業には出席せず、現地の指導教官に指導を受けながら自分で調査を進めることになる。

Non-graduate Student の留学手続きは、Graduate Student で述べた ~ と同様である。その他に、Non-graduate コース申請者は調査研究計画書(修士課程留学の場合は1,000~1,500語程度、博士課程の場合は1,500~2,000語程度)の提出が必要である。

Non-graduate Student のビザ申請は、UKM での在籍目的に応じて、学生ビザを申請する場合と、EPU(Economic Planning Unit)を通じてイミグレーションからプロフェッショナル・パスを取得する場合の2つに分かれる。学生ビザの申請方法は先述した通りだが、プロフェッショナル・パスを取得する場合は EPU とイミグレーションに自ら赴き、ビザ発給に必要な手続きを取ることになる。

(3)PPS 連絡先

住所: Pusat Pengajian Siswazah, Universiti Kebangsaan Malaysia, 43600 UKM Bangi, Selangor, Malaysia
電話: +60-3-8921-5338, +60-3-8921-3795, +60-3-8921-3895, +60-3-8921-5162

2. マレー語集中講座について

UKM では語学の習得を目的とする留学生のためにマレー語集中講座が開設されている。こ

の講座は UKM のマレー世界文明研究所 (ATMA) で履修できる。ATMA が独自に開設している講座のため履修資格は特になく、マレー語を学びたい人は誰でも (UKM に学生登録をしてない人でも) 授業に参加することができる。

講座は、受講者のレベルに応じて 5 つのコースに分かれている。初級コース I、初級コース II、中級コース I、中級コース II、上級コースがある。必ずしも初級コース I から履修する必要はなく、自分のレベルにあったコースから始めることができる。中級コースからは難度がかなり高くなる。各コースの授業時間は計 100 時間で、大体 1 日 4 時間、週 4 回の割合で授業が組まれている。

授業は、講義形式を取ることは少なく、ディスカッションや発表が中心である。宿題として文法問題や作文が出される。またカリキュラムのなか

には課外授業も組み込まれている。1 クラスはそれぞれ 3 人~7 人で構成されており、学生の国籍は、韓国、フィリピン、シンガポール、タイ、ドイツ、オーストラリア、アメリカ、日本など多様だ。またマレー語の習得目的も、留学や調査のためだけでなく、ビジネスやボランティア活動のためなど様々だ。

この講座の履修手続きは特になく、UKM の ATMA を訪れて履修希望の旨を伝えるだけでよい。講座の責任者は、Dr. Nor Hashimah (ATMA 所属) である。1 コース 3 名以上の学生が集まった時点で開講されるので、他の学生が集まるのを待たなければならない場合もある。そのため履修の予定が立ちにくいのが難点だ。授業料は、1 コース 1,520 リンギット (2004 年 7 月現在) である。